



強さを支える明確なビジョン

初のタイトル獲得を目論む川崎は、22節終了時点で首位と勝点4差の4位と好位置につけている。強化本部長、コーチ、トレーニングコーチの3者が、それぞれの視点から“強さを支える要因”を明かす。



取材・文 ● 江藤高志 (フリーライター)

Haruo SHOJI
庄子春男
(取締役強化本部長 / 4年目)

「試合内容が目指すところに近づいてきている。そうした好循環が結果を出せる理由のひとつ」

風 問体制3年目で、継続した練習ができており、選手個々の技術が着実に向上しているという手応えを感じる。とともに、それがスタイルの熟成にもつながっていますし、試合内容も目指すところに近づいてきていると感じます。選手たち自身もそれを楽しんでいるように見えますが、そうした好循環が良い結果が出せている理由のひとつです。チーム編成に関しては、これまでスピードのある選手というボー

ントがあったのですが、現体制ではスピードプラス足もとの技術を重視しています。どのポジションでも、どのようなタイプが必要か、という基準も明確です。今季はアジア・チャンピオンズリーグがあったにもかかわらず、28人で開幕を迎えました。これまでは30人程度を擁して戦ってきており、人数的に若干心配する部分はありませんが、数人の怪我人が途中で出たとはいえ、個々のコンディションは良く、上手く乗り切っている

と思います。夏の移籍期間に補強せずに済んだのは、長期の負傷離脱者が出ていないのが理由のひとつです。現状、ディフェンスの選手層については問題ないと思っています。一方、オフエンスのほうは人数が揃っているのですが、本来の力を出し切れていない選手もいるので、もう少し台頭を期待したいところです。今後このスタイルを継続し、追求していきたいと考えています。



今季加入の森島亮太は4試合・1得点と備わっている感も。能力は高いだけに今後の奮起に期待

Tatsuya MOCHIZUKI
望月達也
(コーチ / 3年目)




「“止める・蹴る”の技術、そして一部の選手は“外す動き”をマスターしつつある」





「点を取るために正確にボールを運ぶ」という考えがベースにあり、トレーニングを繰り返すなかで個々の質は着実に向上

チ ーム全体が上手くなってきているのは間違いありませんが、ただそれを、練習慣れ、しただけに終わらせず、実践のなかでもっと良さを出せるようにする必要があります。「点を取るために正確にボールを運ぶ」という考えがスタイルのベースにあり、そのフィロソフィーから落とし込まれたトレーニングを繰り返すなか、止める・蹴るの技術、そして一部の選手は、外す動き、高いレベルでマスターしつつあ

ります。ある程度の結果は出ていますが、まだまだやるべきことは多く、これで完成、というゴールはありません。なぜならば、我々が目指しているのはチャンピオンであり、それも最終的には圧倒的なチャンピオンになりたいわけです。目標をそこに置いた時に、一人ひとりが理解・体得しなければいけないものは、まだまだたくさんあると考えています。

ヤヒさん(風間八宏)は、意識をよく強調しますが、実際、サッカーの奥深さは際限がありません。DFが3枚であれ4枚であれ、1トップであれ2トップであれ、修正し成長できる点は無数にあり、選手は様々なポジションやフォーメーションをこなさし、コツのようなものを掴み始めています。ただ個人もチームも修正できる点はまだまだあると感じますし、どちらもポテンシャルはまだ十分にあるので、さらなる進化が可能だと考えています。

Hidemasa KAWASAKI
川崎英正
(トレーニングコーチ / 1年目)

「戦術に照らし合わせて身体の内作りを進め、選手たちの動きは格段に速くなった」

監 督やコーチの仕事が、相手と戦う武器を作る。ものであれば、私のそれは、身体を守るための防具を作る。ものと認識しています。そのため、チームが始動してから選手一人ひとりに合わせて必要な部位を鍛え、怪我のない身体作りを目指してきました。

風間さんの戦術と照らし合わせた時、必ずしも大きな動作は必要ないと考え、また監督の意見に基づいてフィジカル強化のメニューを作っています。まずは身体の内作りを進めた結果、選手たちの動きは格段に速くなりました。(シーズン前の)宮崎キャンプの時期から比べると、身体の内作りは間違いなく上手くなっていますし、今は余計な力を使わずに動いています。それから、集中的にステップのメニューを取り入れて、アジリティなどを鍛えました。ここで言う「速さ」とは、忍者がバババツと走るような、そんなイメージですね。「動く」というのは、上

半身も含めた全身運動です。昨年まで名古屋に在籍していましたが、対戦相手として川崎を見ていたので、強みと弱みはある程度は把握していました。今季は走るトレーニングをしていませんが、それは戦術から見ても必要だからです。もともとトレーニングで心肺機能を十分に使っていますからね。風間さんとここまで一緒にやって来ましたが、監督のフィジカルに関する理論は、自分のそれとまさに合致していると思います。



今季は身体の内作りから着手。その結果、選手は身体の内作りが上手くなり、動きの質も向上

[特集]

日本代表初陣検証

[スペシャル対談]

チェアマン×セルジオ越後

[クラブダイジェスト]

川崎フロンターレ

2014年9月23日発行(毎週火曜日発行)(9月9日発売)
第35巻第41号通算1302号 昭和55年3月3日第3種郵便物認可

定価 480 YEN (税込)

週刊サッカーダイジェスト



[新2特集] **JAPAN再建論**

後編:Jリーグの価値

[スペシャル対談] **村井 満** (Jリーグチェアマン)

×セルジオ越後

「プロとして輝き、発展するために」

[強化担当者の見聞] **久米一正** (名古屋GM)

鈴木 満 (鹿島常務取締役)

[好評連載] **遠藤 航** (湘南)

Respect my soul〜俺のこだわり〜

[J2・30部レポート] **湘南×松本、**

岡山×磐田 etc.

「注目の上位対決は勝点1を分け合う」

[特集]

新生日本代表 初陣検証

[マッチレポート]

**JAPAN 0
URUGUAY 2**

「随所に垣間見えたアギーレカラー」

[本誌論説]

シンバシーなき“迷”采配

[証言構成]

W杯戦士が語るアギーレスタイル
岡崎慎司 / 森重真人 / 吉田麻也

[インサイドストーリー]

本田圭佑 (ミラン)

「静かに始まった心身の改革」

[対戦相手のJリーグ見聞]

ディエゴ・ゴディン (ウルグアイ)
「優れた技術が日本を苦しめた」



[クラブダイジェスト] **川崎フロンターレ**

[仁川アジア大会展望] **U-21日本代表**

「守備で主導権を握れなければ…」

なでしこジャパン

「W杯を見据え新戦力の発掘へ」